

# 巨龍雲を巻いて

作詞：不詳

## 1. 巨龍雲を巻いて 大西風狂い

ようこぎ

妖虎巍林に眠る ロッキー山麓

う

血と気に生きる若人の向かうところ

たお

手折らで止むべき月の桂を

竜：海中や湖沼に棲み、空にのぼって  
雲を起し雨を降らせるという王者のたとえ

虎：森林・水辺に棲む勇猛のたとえ

妖：ばけもの、怪より強い

巍：高大な

手折らで止むべき：手折らないで置かれようか(反語)

月の桂：中国の伝説で月にはえているという桂の木

ここでは月桂冠(優勝)の意味

## 2. 前人未踏の 雲霧の踏破を

みとう

くもぎり

とうは

誰が不能という アルプスの峻

けん

う

血と気に生きる若人の向かうところ

たお

手折らで止むべき月の桂を

※2番はナポレオンのアルプス越えの故事を

指すものと考え

## 3. 鼓角に血躍る 一夜を夜明かして

こかく

おど

ひとや

よあ

戦士集まる オリンピア祭

う

血と気に生きる若人の向かうところ

たお

手折らで止むべき月の桂を

鼓角：(号令のために)陣中で使う鼓と角笛、または  
それらをならす。

※元歌は七高の対五高野球の試合での応援歌「熱球血を綴りて」である。

この歌は愛媛県の野球の名門、宇和島東高校でも応援歌として歌われている。